

受章おめでとうございます

大金進氏に瑞宝双光章

平成21年春の叙勲で、大金進氏（大内）に瑞宝双光章が授与されました。大金氏は、昭和29年4月に旧大内村立大内中学校を振り出しに平成6年3月に旧馬頭町立馬頭中学校長の職を退くまでの40年の長きにわたり、教職に携わり、初等中等教育に尽力され、その間、



昭和61年4月から3年間にわたり旧馬頭町教育長として教育行政の職務に精励されました。これら長年の実績が認められ、受章されたものです。

本多勝美氏に旭日双光章



平成21年春の叙勲で、本多勝美氏（馬頭）に旭日双光章が授与されました。

本多氏は、昭和58年5月から5期20年の長きにわたり、旧馬頭町議会議員として、郷土の発展と地域産業の振興に尽力され、その間、副議長と議長を歴任し、平成15年4月から1期4年にわたり栃木県議会議員として、地方自治の職務に精励されました。



これら長年の実績が認められ、受章されたものです。

那珂川町再発見 日本再発見

ケビン ブラックバーン

第11話 「またも共通点の発見」

日本人団体を海外に連れていく度に、僕はいつも困ってしまいます。必ず、団員のだれかに「この花は何という花ですか？」と聞かれます。しかし、「花より団子」の僕は野菜栽培には興味がありますが、花の名前にはあまり関心がありません。マリーゴールドやノーゼンハレンなど野菜栽培を補足する花、または有名なバラや菊などはもちろん分かりますが、花の名前は英語でさえ分かりません。

今年の4月に那珂川町の姉妹都市であるホースヘッズ村から12名が来町しました。生徒7名は町内の家庭にホームステイし、中学校の授業に参加しました。ホースヘッズ村の村長をはじめ引率の5名は町の商店街、施設、観光名所などを訪問しました。

案内役を務めていた町民と事務局に、ある悩みが浮かびました。どこへ行っても、ホースヘッズ村の皆さんは周りの花に興味を持ち、すぐ花のところへ行ってしまう。何回も予定の時間を遅れることがありました。

初日の朝、広重美術館見学の後、小砂方面へ出かける予定でしたが、5名の内4名がどこかへ行ってしまう

いました。どうも、乾徳寺の入口にあった植物に誘われたようで、寺の境内にいました。

ホースヘッズ村長は花屋の経営者ですので、興味を示すことを予想しましたが、ほかの4名は退職した営業マン、医者、教員と主婦、つまり一般村民です。しかし、この5名は全員が花に非常に詳しくたのです。

もしかすると、僕の先入観は間違っていたのかもしれない。「日本人は花が好き」ではなく、「那珂川町民とホースヘッズ村民は花が好き」の方が正しいでしょう。そして、花に対する自分の無関心を少々後悔しました。それ以降、町内を歩いている時にも様々な花の存在を以前より意識しています。いつか、その名前も覚えられますでしょう。

いずれにしても、ホースヘッズ村と那珂川町の共通点を新たに発見しました。「花」。



イノシシ肉加工施設の竣工式



5月20日、町営の「イノシシ肉加工施設」の竣工式が関係者約120人の出席のもと行われました。

農作物に被害を及ぼし年々増加しているイノシシを捕獲し、被害の軽減と捕獲したイノシシの肉を地域資源として活用し、特産品とすることで地域活性化を図ることを目的に、旧和見小学校校舎に隣接して木造平屋（約88㎡）の当施設が、総事業費3千8百万円で整備されました。

式典では、川崎和郎町長から「ここで加工されたイノシシ肉のブランド化を図り、地域の特産品として、道の駅や地元温泉郷に販売し、交流人口の増加、地域活性化に繋げて行きたい」とあいさつがありました。

式典後、二期倶楽部（那須町）やばとう手づくりハム工場（小口）の協力により、イノシシ肉を使ったフランス料理やワインナーの試食会を開催、参加者の皆さんからは「思っていたよりも癖がなく、軟らかくておいしい」と好評でした。



従来、捕獲されたイノシシは、食品衛生法により、自家消費するか、廃棄されるだけでしたが、県内初で全国的にも稀な当施設の稼働により、積極的に買い取られ、食肉として加工し、販売することが可能となりました。

今後は、町内捕獲者のほか、茨城・栃木鳥獣害広域対策協議会等と連携を図りながらイノシシの安定的な捕獲とイノシシ肉の販路拡大を図ることとなります。

『那珂川町のイノシシ』のシンボルマークとネーミングが決定！

「那珂川町のイノシシ」のブランド化を図るため、シンボルマークとネーミングを公募、審査の結果、シンボルマークは136点の中から中本竹識さん（北九州市）の作品（下記参照）、ネーミングは155点の中から小寺光雄さん（名古屋市の作品）『八溝ししまる』が選出されました。



シンボルマーク及びネーミング

イノシシ肉処理作業過程

